

話題 其の44：“日本の経済発展の理由：久米的考察”

途上国の人は「原爆投下の荒れ野から経済大国に急成長した理由」を聞きたがります。これまでも、チームワークや教育といったテーマで、この紙面で幾つかは書いてきたと思うのですが、もう一度箇条書きでまとめてみたいと思います。

- a) 中国4000年に培われた思想、技、製品がアジアの東の果て日本に伝播され定着した。
- b) 中国からの伝播や日本独自の思想、技、製品は参勤交代等の制度で国内に広がった
- c) 四季のある日本では「備え有れば憂いなし」として、衣食住に渡って“ものづくり”が盛んになった。フィリピンと衣服の違いを比べると良くわかるでしょう（年中TシャツでもOK）
その他、漬物や乾物などの保存食、台風対策や雪対策の家屋など多くの工夫が“ものづくり”を促進させたのでしょ
- d) 海と山に囲まれ、天然資源に恵まれた日本国は、木工製品をはじめ紙製品や布製品を日常生活に用いることが比較的簡単だった。（近代産業以前）
- e) 恵まれた天然資源と中国や朝鮮半島から伝播した技は、在来の刀鍛冶などの伝統技能と融合して“ものづくり”を発展させ促進した。
- f) 朝廷や徳川政権などが、その力の象徴として城や仏閣等の建造物、刀剣、陶芸、木工家具、織り物、装飾品に至るまで“ものづくり”の環境を向上させ、職人を奨励した。
- g) 職人は技を競い合うことでより完璧な製品を目指し多くの芸術品を残している。この製品群は昔も今も、職人達にとって技の目標地点としても技能継承の役割を担ってきた。
- h) 職人達の技は、庶民の美意識や“見る目”を育て“ものづくりセンス”を高めた。
- i) 天然資源と“ものづくり”は、子どもの遊びにも大きく影響し、創造性や身体能力を伸ばした。
例えば、独楽、剣玉、凧、折り紙、ビー球、メンコ、竹馬など楽しく遊ぶための努力や工夫する力を伸ばす。この能力は職業人になる前の重要な生活体験であり、職業人として職業を習得する準備として大切です。
- j) 徳川時代の中央集権体制、外様大名、地主制度、寺社の檀家制度など、人々は大小の組織の中で役割と責任を担って暮らしてきた。（例>土農工商：良否は別としても）
- k) 侍社会は「文武両道」という教育の指針を持ち、現在の教育にも反映していると思える。
同じく「礼に始まり 礼に終わる」という武道や茶道の精神が日常の躰教育に影響している。
- l) 地理的には、沿海部の比較的平地を利用した道路網の整備（参勤交代や伊勢参宮などが引き金）が早く、物流や情報のネットワークが進んでいた。
ネパールなどの山岳地域や7000もの島からなるフィリピンと比較するとわかりやすいですね。
- m) この様な発展要素が整っていた日本は、産業革命や戦後のアメリカから導入された新技術や品質管理のシステムなどを受け入れる土壌が整備されていたといえます。

これらが、日本で生まれ育ち、教育を受け、かなり長い職業人として生活してきた私が、ネパールやフィリピンそしてヨルダンで生活する中で感じ取った「日本の経済成長の要因」です。

まだ幾つかの要素が存在するのですが、とりあえず思いつきで羅列しました。

これら a) から m) の各要素が絡み合って工業技術大国日本が出来たのだらうと思います。

但し、現在の日本は必ずしも「精神文化の発展国」と断言しません。

少年犯罪の低年齢化、中高年の自殺、子育てに悩む若い母親、援助交際や自立できない若者の増加等多くの社会問題を抱えています。一昔前の勤勉な日本人を模範とするには限界が来たのでしょうか？
次回は衰えて行く日本の精神文化と題して書きます。
